

## やしろの森昆虫研修会報告 ～簡易展翅展足板と標本箱作り～

### 兵庫県生物学会東播磨支部

一日目 2015年7月19日(日) 9:00~12:00

実施内容: 昆虫採集および, スタイロフォームを用いた展翅・展足作業(講師: 北村 健)

参加者: 加古川西高校及び白陵高校の中高生を含む12名。

井上裕貴(加古川西高), 真鍋裕介(白陵高), 加藤大樹・前田直樹・西田悠人(白陵中)

当日家を出る頃には実施の問い合わせが入るほどの本降りだったが, 予定通り実施した。台風の豪雨直後のためか前日の下見では予定時間内では標本作りに必要な昆虫が確保ができないと思い, 急遽チョウやトンボ, カミキリムシなどを捕獲し, 最低限の材料は準備できていたからだった。

やしろの森公園のボランティアスタッフでもある梶原先生(県立三木北高校)の案内のもと, 実習用の昆虫採集を兼ねて園内を見学する。ザリガニによる水生植物や昆虫相への被害の状況及び合鴨農法を見学する間に研修用昆虫もなんとか確保できた。

その後, 10時半頃より研修室にてスタイロフォームを展翅板・展足板に用いた標本づくりを行い, 乾燥剤を入れた衣装ケースに収めて1日目の研修を終えた。

(文責 北村健<sup>1)</sup>)

二日目 2015年7月26日(日) 9:00~12:00

実施内容: 身近にある箱を利用した標本箱作り(講師: 大谷 剛)

参加者: 加古川西高校及び白陵高校の中高生を含む14名。

井上裕貴(加古川西高), 真鍋裕介(白陵高), 前田直樹・西田悠人(白陵中)

各自が持参した箱は, 菓子箱であったりタオルなどが入っていたような箱であったり様々だったが, 研修会の終わりにはどれもみな立派な標本箱に変身していた。作り方は, まず, 箱のふたを余白約1cm程度残

してカッターナイフで切り, 大きな窓枠を開ける。残した余白の部分に両面テープを張り, そこに適当な大きさにはさみで切りだしたサンデーシート(商品名)を張り付ける。一方, 箱の本体の方には, ジョイントマット(フロアマット)などとしてホームセンターで売っているクッション性のある床敷材を適当な大きさに切り出し, 箱の底に両面テープで固定して展翅針を刺せるようにする。これで標本箱の完成である。

先週の研修会で作成した昆虫などの標本を, 皆, 思い思いのレイアウトで自作の標本箱に収めたら, もう, 立派な生物標本の出来上がりである。自分で採集し展翅した資料を自作の標本箱に収める, 世界に一つしかないオリジナルな資料に参加者全員が満足した様子だった。防虫剤の選び方や標本箱の収納の仕方, ラベルの書き方など, 基本的なノウハウも具体的に教わることができた。

(文責 稲葉浩介<sup>2)</sup>)

白陵中学高等学校生物部による確認昆虫(7/19は採集した昆虫が少なかったため, 7/26の午後も採集した。)

日時 2015年7月19日 9:00~10:40 晴れ

トンボ目: オオシオカラトンボ *Orthetrum triangulare melania* Selys

甲虫目: マメコガネ *Popillia japonica* Newmann・コガタルリハムシ *Gastrophysa atrocyanea* Motschulsky

ハエ目: キリウジガガンボ *Tipula aino* Alexander

チョウ目: キタキチョウ *Eurema mandarina mandarina*・ヒメウラナミジャノメ *Ypthima argus* Butler

日時 2015年7月26日 12:00~15:45 晴れ

トンボ目: オオシオカラトンボ *Orthetrum triangulare melania* Selys・コシアキトンボ *Pseudothemis zonata*

Burmeister・チョウトンボ *Rhyothemis fuliginosa* Selys

・ギンヤンマ *Anax parthenope julius* Brauer・ヒメアカネ *Sympetrum parvulum* Bartenef・ハグロトンボ

*Calopteryx atrata* Selys・キイトンボ *Ceragrion melanurum* Selys

1) 兵庫県立社高等学校

2) 兵庫県立小野高等学校

3) 白陵中学校・高等学校

2015年12月10日受理

カマキリ目：カマキリ幼虫<sup>注1)</sup>

バッタ目：イナゴ<sup>注1)</sup>

カメムシ目：アブラゼミ *Graptopsaltria nigrofusca* Motschulsky・ミンミンゼミ *Hyalessa maculaticollis* Motschulsky・ニイニイゼミ *Platypleura kaempferi* Fabricius・ヒグラシ *Tanna japonensis* Distant・ツクツクボウシ *Meimuna opalifera* Walker・オオアメンボ *Gerris elongates* Uhler・シマアメンボ *Metrocoris histrio* B.White・アメンボ *Gerris paludum insularis* Motschulsky

アミメカゲロウ目：ウスバカゲロウ (アリジゴク) *Hagenomyia micans* McLachlan・クサカゲロウ幼虫<sup>注2)</sup>

甲虫目：コガタルリハムシ *Gastrophysa atrocyanea* Motschulsky・ミヤマクワガタ *Lucanus maculifemoratus* Motschulsky・カナブン *Rhomborrhina japonica* Hope・マメコガネ *Popillia japonica* Newmann・アカハナカミキリ *Corymbia succedanea* Lewis・シロスジカミキリ *Batocera lineolata* Chevrolat・オトシブミ *Apoderus jekelii* Roelofs・オオムツボシタマムシ *Chrysobothris ohbayashii* Y. Kurosawa・ヤマトタマムシ *Chrysochroa fulgidissima* Schonherr

ハチ目：オオスズメバチ *Vespa mandarinia eatilineata* Cameron・セグロアシナガバチ *Polistes jokahamae*

Radoszkowski・オオモンクロベッコウ *Anoplius samariensis* Pallas・ムネアカオオアリ *Camponotus obscuripes* Mayr・クロオオアリ *Camponotus japonicas* Mayr

チョウ目：ヒメウラナミジャノメ *Ypthima argus* Butler・コミスジ *Neptis sappho* Pallas・キタキチョウ *Eurema mandarina mandarina*・ヤマトシジミ *Zizeeria maha* Kollar・ミドリシジミ *Neozephyrus japonicus* Murray・ツマグロヒョウモン *Argyreus hyperbius* Linnaeus・ミドリヒョウモン *Argynnis paphia* Linnaeus・サトキマダラヒカゲ *Neope goschkevitschii* Menetries・イチモンジセセリ *Parnara guttata* Bremer et Grey・オオトビモンシャチホコ *Phalerodonta manleyi* Leech・ツマグロフトメイガ *Noctuides melanophia* Staudinger・モンシロドクガ *Sphrageidus similis* Fuessly

ハエ目：シオヤアブ *Promachus yesonicus* Bigot・キリウジガガンボ *Tipula aino* Alexander

注1) 目視のみで、種名の確認まではできていない

注2) 種名の確認はできているが、標本は採取していない

(文責 西口龍平<sup>3)</sup>)

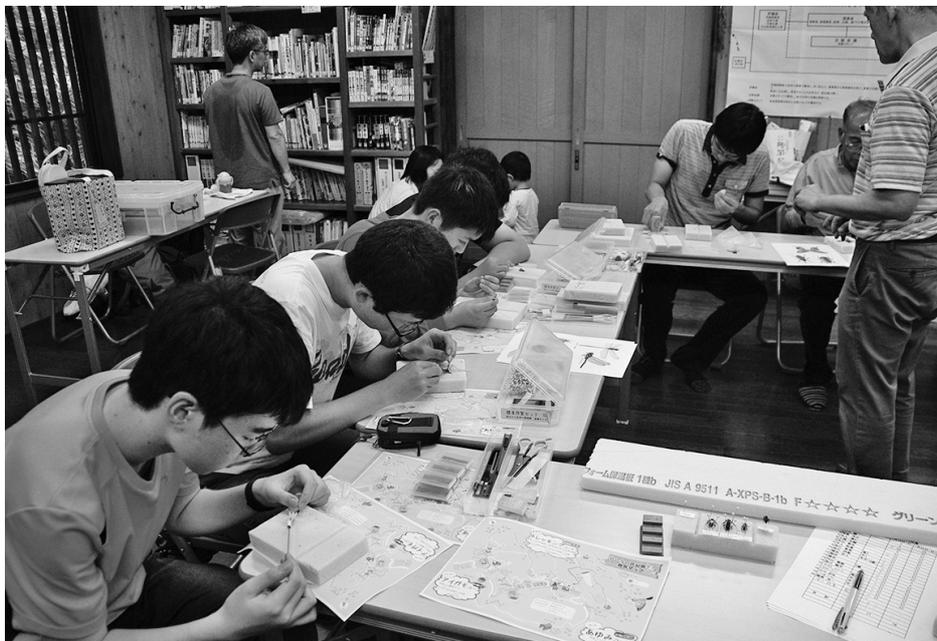


写真1 スタイロフォーム (30 mm 厚みの空色のもの) に展翅・展足をしている。

写真2 第二日目。  
各自持参の紙箱の蓋を、  
1cm幅を残して切り抜い  
ていく。



写真3 0.5 mm の透明アクリル  
板（サンデーシート）  
を、持参の紙箱に合わ  
せて切り出す。

写真4 透明アクリル板を、蓋の  
内側に両面テープではり  
つけると、標本箱が完成  
する。



## 若手研究者との座談会

### 兵庫県生物学会神戸支部

日時：2016年3月12日18時30分～21時40分  
場所：神戸三宮東急REIホテル1Fレストラン

「シャングリ・ラ」

〒651-0096

兵庫県神戸市中央区雲井通 6-1-5

TEL 078-291-0109 FAX 078-221-2917

講師：鶴田哲也准教授 大阪産業大学  
(魚類生態学, 陸水生態学, 保全生物学,  
進化生態学)

参加費：飲食代 3500円

本会初の試みとして、現在活躍中の若手研究者との座談会を企画しました。従来の研究会や講演会では講師の講演を聞くのみでしたが、この企画では双方向の情報交換を目的としました。当日は、私を含め7名の会員が参加しました。鶴田先生のこれまでの研究内容を1時間ほどお話いただいた後、飲食をともにしながら、ざっくばらんに話し合いました。

鶴田先生は静岡県出身で、近畿大学を卒業の後、金沢大学、北海道大学、中央水産研究所などで生態学を学び、現在は大阪産業大学でイタセンパラ（淀川水系に生息するタナゴ科の天然記念物）の研究をされています。その保護のためにイタセンパラ市民ネットワーク（イタセンネット）を組織されています。イタセンネットは、生物多様性の保全回復を目的に市民団体と研究機関、企業、行政などが連携して組織されており、誰でも参加できます。兵庫県内でのシカ害に対する取り組みを組織する良い例として、学ぶところが多いと感じました。また、リュウキュウアユについての研究では、アユが好む河床を説明していただき、河川の保全活動の一環として、本州のアユに対しても応用ができそうでした。

鶴田先生の経歴が多彩なだけに、参加者が参考になるような取り組みも多く、話が尽きませんでした。閉会を惜しみつつ21時40分に終了しました。また、会員同士初対面の方々もおられ、会員間の交流を深めるのに非常に良い機会にもなりました。次年度も継続して、座談会を

催したいと考えています。是非、ご参加ください。

現在、鶴田研究室では、

- ・淀川城北ワンド群の魚類群集
- ・オオクチバスとブルーギルの食性
- ・カダヤシの生息環境と食性
- ・国内外来種ヌマチチブによる在来魚への影響
- ・釣り人の外来魚に対する意識調査
- ・都市河川の生物多様性
- ・八尾市のため池群におけるニッポンバラタナゴの保全学的研究
- ・河畔植生が河川内の底生昆虫の群集構造に与える影響
- ・希少淡水魚アカザの生息環境と食性
- ・三重県伊賀市の水田地帯における水生昆虫の群集構造

など様々なとりくみをされています。鶴田先生は筆者が淡水魚研究をしていた頃からの付き合いです。各支部での活動に役立ちそうなアドバイスをいただけたと思います。気軽にご相談ください。

神戸支部から鶴田先生の飲食費と交通費を支出していただきました。

(文責：石川正樹)

